

拠点都市基本計画を知事が承認

職・住・遊・学を備えた街に

市議会六月定例会が招集された六月九日、小畑市長が行政報告をしました。その中から、主なものの要旨をお伝えします。

なお、今定例会で審議された案件等については、七月一日号でお知らせします。

秋田桂城短期大学の設置状況について

秋田桂城短期大学の設置については、去る四月二十八日に設置主体である学校法人秋田経済法科大学が文部省に申請し、受理されたことをまずご報告します。

本市が平成三年に取り組んでから丸三年が経過し、今回の申請にこぎつけたわけですが、学校法人秋田県のご努力並びに市議会、地元同盟会など、地域一丸となった支援の結果と深く感謝しています。文部省では、五月十三日に大学設置・学校法人審議会に秋田桂城短大を含めた二十三の新設校について諮問し、まもなく文部省の個別審査が始まる予定です。今後は七

月に土地や経費関係の追加書類を提出して十二月の第一次判定を待ち、順調に行くと来年早々には建設着工のスケジュールになっています。本市としては予定通りの開校に向けて最大限の支援をしようと思っています。

今年四月には全国で新たに十八の大学がスタートしていますが、そのうち実に十の大学が公私協力方式になっていて、高等教育機関設置に対する自治体の取り組みは、全国的に盛んになっています。

また、秋田桂城短大が開学を目指している平成八年には、全国で十の大学、三つの短大が開学を申請していますが、このうち六校が公私協力方式で進めています。本市も公私協力方式で進めていて、土地や財政面で支援するわけです。

が、誠にありがたいことに、設置協力会の五億円募金運動が順調に展開され、目標額に近づきつつあると聞いています。

短大設置は、人材育成を図るためばかりでなく、「若者が集う街」としての街の活性化や、直接、間接の経済効果も期待できます。今後とも皆さんのご支援をお願いします。

平成5年度各会計

決算見込みについて

平成五年度の各会計決算見込みについては、一般会計の決算額が、歳入総額二百四十二億六千六百万円、歳出総額二百三十六億三千四百万円となりますが、合併処理浄化槽設置整備事業ほか五件の繰り越しに伴う翌年度への繰り越し財源三千四百万円を差し引くと、五億九千八百百万円の繰り越しとなる見込みになっています。

次に水道事業会計の収益的収支の決算額は収入が十億四千三百万

円、支出が九億八千八百万円で、差し引き五千五百万円の単年度純利益を計上できる見込みです。

また、病院事業会計の収益的収支の決算額は、収入が七十一億三千二百万円、支出が七十四億八千二百万円、差し引き三億五千万円の単年度損失となる見込みです。従って平成五年度末の累積欠損金は、十億四千二百万円となる見込みです。

米代川流域

地方拠点都市地域について

米代川流域地方拠点都市地域については、昨年八月に第三次の全国指定十二地域の一つとして指定を受け、それと並行して基本計画作成の推進組織として整備協議会を発足させました。

その後、阿仁町、上小阿仁村も加えた十八市町村で、県北一体となった基本計画の作成に取り組んできました。

基本計画が四月末にまとまり、

五月には整備協議会総会の了承を受け、五月二十日に知事へ申請したところ、五月三十一日に知事の承認を得たものです。

承認された基本計画には、日本海沿岸東北自動車道や大館能代空港建設をはじめとする高速交通体系の一層の整備、大館駅前や御成町南地区の都市基盤整備や産業支援機能の充実、大館地区多目的ドームなどの交流拠点施設の整備、秋田桂城短大、福祉総合エリア等々の整備、あるいは拠点基金を活用した事業などが盛り込まれています。今後はそれらをもとに、県北の中心都市として、職・住・遊・学の備わった、魅力あるまち作りを進めていきたいと思っています。

農作物の生育状況について

昨年は異常気象によって農作物が戦後最悪の不作となりました。また一方で米市場の部分開放が行われるなど、未曾有の事態に遭遇したのはご承知のとおりです。

こうした状況のもとで迎えた今年の水稲の生育状況は、四月の育苗期間中、一時寒暖の差が大きいために日が見られ心配されましたが、日照時間が比較的長かったため、大きな影響は受けませんでした。田植えも、平年並みの五月十九日に盛期を迎え、比較的温暖な日が多かったため、発根、活着とも順調に推移しています。